

1 はじめに

天草市立御所浦中学校は、離島にある全校生徒34人の小規模校である。本校では、総合的な学習の時間における探究的な学習過程を重要視した授業改善に取り組むとともに、各教科の授業においても「主体的に学びを進める授業づくり」に力を入れている。また、地域資源（地域の『ひと』、『もの』、『こと』）やICT端末を効果的に活用しながら、実社会、実生活における課題解決に生きて働く資質・能力の育成を行っている。ここでは、実践の概要を紹介する。事例の詳細については、資料末尾の参考にあるリンク先から御参照いただきたい。

2 本校の総合的な学習の時間における探究課題

全体テーマ	「今、そして未来のふるさと御所浦を考えよう」		
学年別テーマ	1年（50時間）	2年（70時間）	3年（70時間）
	ふるさと御所浦の現状や課題と魅力	地域活性化に向けた取組とふるさと御所浦の魅力発信	未来のふるさと御所浦を守るまちづくり構想

3 実践事例Ⅰ「地域の『ひと』、『もの』、『こと』との関連」

（1）『ひと』からの学び

・地域おこし協力隊の講話

御所浦ならではの魅力が満載であることや町を活性化させるアイデア、可能性を学んだ。

・天草市役所まちづくり推進課の講話

地域の現状と課題について、子育て、地場産業、観光の3つの視点から考えるまちづくりへの意欲を高めた。

（2）『もの』との関わり

・白亜紀時代の地層の現地調査（1年）

海から地層を現地調査し化石採集を行った後、学芸員から学んだ。

・ジュニアガイドサポーター資格の取得（3年）

白亜紀資料館から資格を認定され、御所浦の行事でガイドボランティアを行った。

・「御所浦恐竜の島博物館」オープンイベントでの英語ボランティアガイド（2年）

米国モンタナ州カーター州立恐竜博物館の一行に対して展示されている化石について英語で説明した。

（3）『こと』への関わり

・鳥峠パノラマウォークラリー大会・島あじマラソン大会のボランティア

生徒の主体性を重んじ、生徒が活動内容を発案し実行した。（例：出迎え、受付、準備体操、給水所、『見守り隊』、ジュニアガイドサポーターとしてのガイド等）

・スイーツの商品開発

地元の物産館及び洋菓子店と協働し、地元特産物「デコポン」を使用したスイーツ『ごしょろーる』を開発した。

4 実践事例Ⅱ「探究的に学ぶ生徒の育成～自立した学習者の育成を目指して～」

（1）探究的な学習過程の重視

課題の設定	体験活動などを通して、課題設定をし、課題意識をもつ。
情報の収集	必要な情報を取り出したり収集したりする。
整理・分析	収集した情報を、整理したり分析したりする。
まとめ・表現	気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、表現する。

- これまでの教師主導（探究活動や活動内容が決まっていたり、情報収集やまとめ・表現の方法が制限されていたりした）の授業から、生徒が自ら課題を見出し解決に向けて取り組む過程を重視した授業に転換し、教師は探究の過程で必要な地域教材等（『ひと』、『もの』、『こと』）をコーディネートしたり学習環境を整備したりする。

(2) 個人の探究課題の設定と「探究計画書」の作成

- ・課題を自分ごととして捉え、自分の探究課題を設定して主体的に解決に取り組む。
- ・課題を設定した背景を明確にする。
- ・情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の方法は、選択肢から選ぶ形式とする。
- ・友達の探究課題に関心を持ち、学びを進めるヒントを得るため、「他者の探究や学び方との関連」の欄を設けている。

(3) 課題に合わせた探究方法と ICT 端末やクラウド環境の活用

- ・情報収集の方法：電話、訪問インタビュー、リモートインタビュー、フォームを活用したアンケート、イベントへの参加、体験活動、栽培、実験など
- ・まとめ・表現の方法：パンフレット作成、PR 動画作成、栽培した野菜の提供、イメージ模型の作成、説明会など
- ・情報をドライブに一括管理することが可能。
- ・「ふりかえりシート」を活用して進捗状況やふりかえりを記録し見通しを持って探究に取り組む。
- ・クラウド環境を活用し他者参照をすることで、解決に繋がる糸口を友達から得ることができ、学習が苦手な生徒も安心して授業に向かうことができる。

(4) 思考を可視化するための思考ツールの活用

- ・総合的な学習の時間のガイダンスで、代表的な思考ツールを紹介し、テーマに最適な思考ツールを選択する経験を通して、自分で適切な思考ツールを選択できるようにした。総合的な学習の時間だけでは十分に習得できないので、各教科においても計画的に活用した。
- ・思考ツールを使うことで思考が止まったケースや、思考ツールを使わず自由に発想したり考えをまとめたりするケースもあったため、使わないという判断もできるように促した。
- ・思考ツールはいつでも使えるよう Google スライドと Figjam にまとめ、思考ツール集として Google Classroom に保存している。

5 教師の手立て・工夫

- (1) 探究課題との出会わせ方を工夫する。
- (2) 探究計画書の見直しや定期的な探究面談を行う。
- (3) 探究に行き詰まった時に、軌道修正したり助言したりする。
- (4) 探究の過程で必要な地域人材をコーディネートする。
- (5) 教科の授業も探究的な学習過程で実施する。
- (6) ふりかえりシートで探究の過程と次時の活動を意識させる。

6 まとめ

御所浦中学校の生徒は、一人一人が自分の課題をもち、自分なりの方法で主体的に探究している。生徒が主体的に探究することができるのは、普段から生徒が学びの主体となる授業づくりを心掛ける教師の授業観の転換の影響が大きい。また特徴的なのは、学校外の様々な方と交流・連携しながら学んでいる点である。社会と関わりながら学ぶことで、異なる視点や新たな考えを発見し、現実的な解決策を考える生徒の姿があった。

学校全体で、自立した学習者を育成する風土があり、探究課題に深く向き合う生徒の姿から、将来、社会の中で生きて働く資質・能力の育成につながっている。

【参考】

○実践事例Ⅰについて

天草市教育委員会情報サイト『AmaEdu ポータル（天草体験学習）』

<https://sites.google.com/city-amakusa.ed.jp/amaedu/%E5%A4%A9%E8%8D%89%E4%BD%93%E9%A8%93%E5%AD%A6%E7%BF%92>

○実践事例Ⅱ 及び教師の手立て・工夫について

プレゼン資料「探究的に学ぶ生徒の育成 ～自立した学習者の育成を目指して～」

https://drive.google.com/file/d/1M65xUIq3H5nqXszNCHS55P32EWZq9zDs/view?usp=drive_link